

平野啓一郎 講演会

- 日 時 : 7月11日(月) 13時から
- 対面会場 : 九州大学、伊都キャンパス、~~イーストゾーン、E-E-109 教室~~
センターゾーン、2304 教室(会場変更)
アクセス → <https://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/access.php>
感染症対策のため、対面参加の定員は ~~80名~~120名です。
- オンライン会場 : 参加申込者に Teams URL を送ります。
- 講演題目 : 死と向き合う時、生は
ドイツの哲学者ハイデガーが『存在と時間』の中で説いた「死への先駆」という概念を手懸かりに、死の自覚が、人を「本来的な生」へと覚醒させる、という思想について批判的に検討します。具体例として、同時代のドイツの作家トーマス・マンの『ブッデンブローク家の人々』、『魔の山』といった作品の登場人物たちに注目し、現代社会を生きてゆくための思想を考えます。
- 作家 平野啓一郎氏の代表作 :
『日蝕』(1998)、『葬送』(2002)、『ドーン』(2009)、『マチネの終わりに』(2016)、『ある男』(2018)、『本心』(2021)などの小説、『私とは何か「個人」から「分人」へ』(2012)などの評論・随筆。
- 参加申込 : 電子メールにて、①お名前、②ご所属、③希望会場を「平野啓一郎講演会」事務局 (sindoo315 [アットマーク] gmail.com) にお伝えください。
- 本企画は、九州大学大学院人文科学府の講義「現代文化論 C」の公開授業です。九州大学大学院人文科学研究院独文学講座教授の小黒康正が企画しました。



(トーマス・マン、Wikipedia 英語版より)



(2017年9月13日のミュンヘン講演、小黒康正撮影)